政策研究センター　リサーチ・プロジェクト　成果報告書

提出日： 2020/2/28

申請者(リーダー)： 氏名　篠田　邦彦　　職名　政策研究院　教授・参与

リサーチ・プロジェクト名：

(和文)　インド太平洋構想におけるASEAN対話国との協力可能性に関する研究

(英文)　A Research on Feasibility of Cooperation with ASEAN Dialogue Partners under the

期間(yyyy/mm/dd)： 2019/11/1　から　2021/3/31　2年間

共同研究者：	氏名	職名	所属機関・部局名	(備考)
共同研究者1	安橋　正人	エコノミスト	東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）	
共同研究者2				
共同研究者3				
共同研究者4				
共同研究者5				

リサーチ・プロジェクトの目的

2019年6月のASEANサミットで、「インド太平洋に関するASEANアウトルック（AOIP）」が採択され、同年11月の東アジア首脳会議（EAS）でも採択されるとともに、具体的な協力内容の検討を開始することとなった。今後、インド太平洋構想がアジアを中心とする広域経済圏の形成を目指す重要な枠組みとなる中で、中長期的な視点に立って、インド太平洋構想の進め方や具体的な協力内容に関する政策提言を打ち出すとともに、インド太平洋構想を支援する東アジア首脳会議参加国のトラック2（大学・研究機関）のフォーラム構築を実現させることが本研究の目的である。

研究成果の概要(800字程度)：

－2019年12月に田中明彦学長を座長とし、関係省庁、経済団体、GRIPS・その他研究機関がインド太平洋協力の具体化に向けて議論を行うインド太平洋協力研究会を立ち上げ、これまで研究会を3回開催。

－インドネシア・シンガポールに出張し、相手国の政府・研究機関と協議を行った結果、AOIPを支援するトラック2フォーラムの立ち上げに向けた協力を進めていく見通し。

－研究会の議論を踏まえ政策提言の骨子をまとめており、ポイントは以下のとおり。

・グローバル化と技術革新により、インド太平洋地域は、国際秩序の揺らぎ、第四次産業革命の進展、コネクティビティの拡大、経済社会課題の顕在化等の地形学的な課題に直面。

・アジアを中心とする協力枠組が「東から西」（APEC→インド太平洋）、「ASEANから周辺国」（AFTA→ASEAN+1→RCEP・CPTTT）へ拡大・深化する中、米国・中国の地域協力への建設的関与、インドのRCEP参加を促すことが重要。

・インド太平洋地域の平和と安定に向けて、①デカップリングでなく競争的共存（米中対立によるサプライチェーン分断リスクの回避）、②ルールによる橋渡し（海洋安全保障、通商、技術、デジタル、インフラ等）、③技術革新による課題解決（デジタル・エネルギー等の先進技術活用）等の考え方の共有を目指す。

・AOIPの協力の具体化のために、①海洋協力（海洋紛争の平和的解決のための人材育成・機材供与）、②コネクティビティ（経済デジタル化を踏まえたインド太平洋大の連結性マスタープランの策定）、③SDGs（各国の優先課題の特定、デジタル経済を活用した統合ソリューションの提示）、④その他協力（RCEP早期署名、CPTPPメンバー拡大、地域間FTA（例－CPTPP・EU）の検討）等を進める。

・政府、産業界、大学・研究機関が連携したインド太平洋協力の推進体制の構築、特に首脳・閣僚レベルの官民対話の開催を通じた産業界の巻き込み、大学・研究機関が政策提言を行うトラック2フォーラムの構築が必要。

研究成果：

別紙((成果報告書(研究成果一覧))に記入

その他、研究成果として特記すべき事項：

※政策研究センターのリサーチ・アシスタント（RA）雇用に採択されたプロジェクトについては、RAを雇用したことによって得られた研究成果（例：RA氏名が記載された①論文発表、学会発表など。予定も含む。）を必ず記載してください。

（全ての項目含め、1頁以内で記述してください。）

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:
(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)
(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。)等掲載)
※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。
※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。
※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

	著者	標題 0件	雑誌名/所収図書の編者・図書名・出版者等	巻・号/章・節	発行年 件	開始ページ	終了ページ	査読(有=1) 0	国際共著(yes=1) 0	DOI	オープンアクセス(yes=1) 0
1							-				
2							-				
3							-				
4							-				
5							-				

図書:
※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。
※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

	著者・編者	図書名 0件	出版社	発行年月	総ページ数
1					
2					
3					
4					
5					

口頭報告・学会発表等:
※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。
※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

	報告者等	論題 4件	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1	篠田　邦彦	インド太平洋協力の強化に向けて	インド太平洋協力研究会	2019/12/2	GRIPS(東京)
2	篠田　邦彦	米中貿易摩擦の中でのRCEPと東アジア協力の行方	中国社会科学院日本研究所セミナー	2019/12/20	中国社会科学院(北京)
3	篠田　邦彦	インド太平洋協力の強化に向けて	政策研究院参議会	2020/2/18	GRIPS(東京)
4	篠田　邦彦	米中貿易摩擦の中でのRCEPと東アジア協力の行方	21世紀日中関係展望委員会	2020/2/26	日中経済協会(東京)
5					